

県北・日光版

子育て支援をサポート

NPO法人に物心両面

【那須塩原】西那須野ロータリークラブ（角橋徹会長）は、ひとり親家庭などの子育て支援に取り組むNPO法人「キッズシェルター」（森田野百合理事長）の支援を続けている。今月には会員企業が独自に子どもの衣類や玩具を募って同法人に提供するなど、支援の裾野が広がりにつつある。（島野剛）

会員企業独自の協力も

同クラブは会員41人。これまで市外の児童養護施設の支援を続けてきたが、会員から「地元にも貢献すべきだ」との声を受け、市内を拠点に活動する同法人の支援を始めた。

同法人は現在、1〜16歳の18人の生活支援などに取り組む。今夏には同法人が夏休み子どもたちに昼食を提供する「子どもの居場所」を開くと聞き、食堂のリフォーム工事でクラブが



ロータリークラブ会員の企業から寄付されたキーボードなどで遊ぶ子どもたち

資金援助。会員は居場所でも子どもと一緒に食事し、バ

ーベキューを催すなどして交流も深めた。クラブとしてだけでなく、会員が経営する企業がうどんや野菜などの食材を提供するなど、支援は個々のメンバーにも浸透してきた。今月中旬には太夫塚5丁目、建設業「生駒組」が

冬物の衣類、靴、文房具、玩具など軽トラック1台分を寄付した。同社代表取締役で同クラブ青少年奉仕委員会副委員長の生駒憲一さん（49）が9月の社内会議で社員に声をかけたところ、翌日から続々と提供があったという。生駒さんは「できることを長く続けたい」と今後とも可能な範囲で協力する考えだ。

角橋会長（61）は「資金援助だけでなく、継続的に支援活動に参加することを考えている」。同法人の森田理事長（56）は「子どもたちにとって地元で支援者がいるというのはありがたい」と感謝している。

ロータリー財団地区補助金事業「こどもの夢・食事を伴うこどもの居場所」

NPO法人キッズシェルター運営のこどもの夢・食事を伴うこどもの居場所への西那須野ロータリークラブからの支援活動が下野新聞「県北・日光版」に掲載されました。記事では、会員からの玩具、日常衣料品、食材などの寄贈や、夏休み期間中に実施したバーベキュー、更に今後の支援についても記載されています。